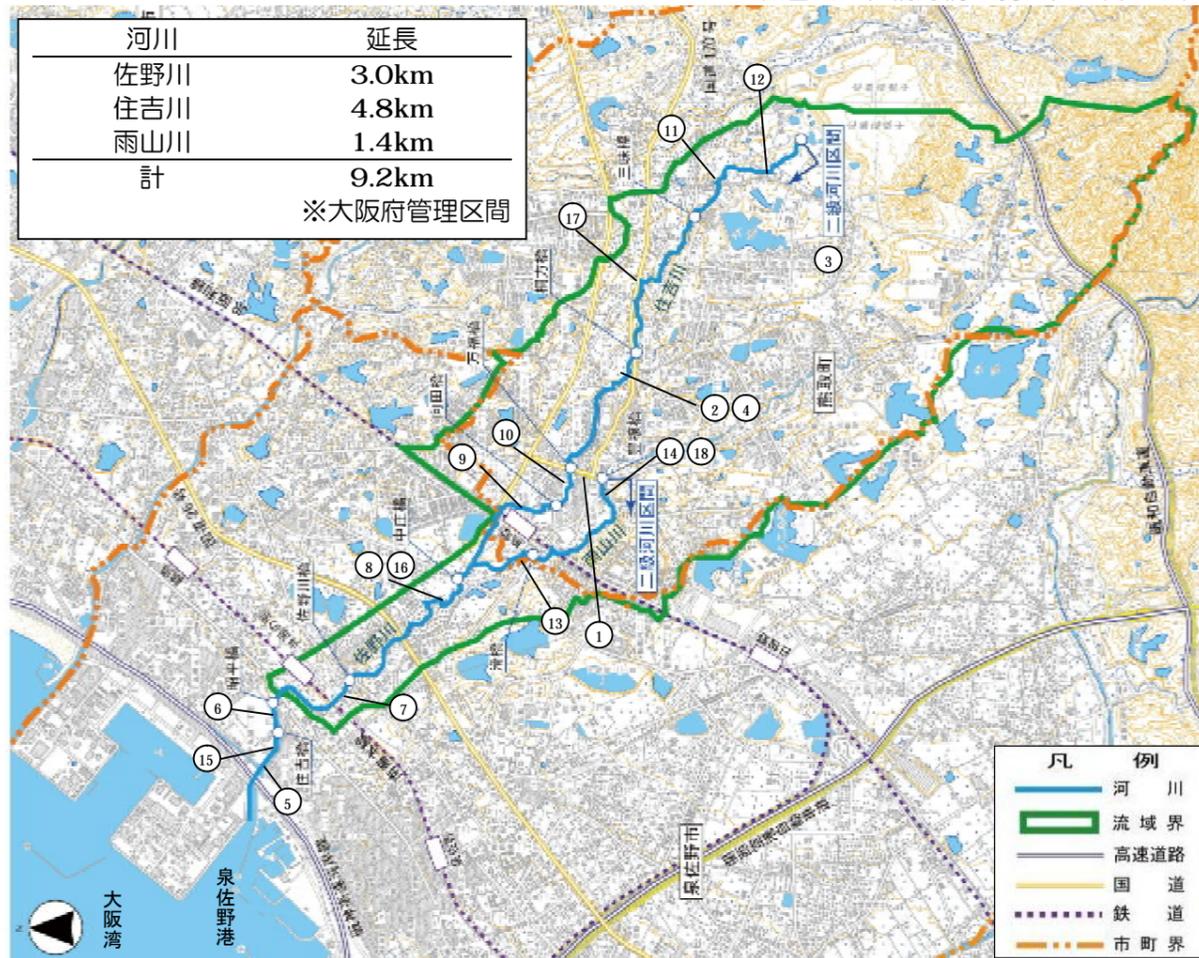


# 二級河川佐野川水系の流域の概要

## 流域の概要

- 流域市町：泉佐野市、熊取町
- 流域諸元：指定区間延長、約 9.2km、流域面積 10.53km<sup>2</sup>
- 河川概要：佐野川/市街地、住吉川下流/市街地、住吉川上流/農地宅地が混在、雨山川/市街地

※住吉川は、桐方橋を境に、上流と下流を区分



## 河川の特徴

- 佐野川水系の河川は著しく蛇行しているが、整備済み区間についてはある程度直線化されている
- 高潮区間は、河口～昭平橋下流の潮止堰までで、概ね感潮区間と一致する
- 堤防形態は、高潮区間が特殊堤防、昭平橋～国道 26 号の区間が築堤と掘込が混在、その他はほとんどが掘込であるが部分的に築堤部や特殊堤が見られる
- 川幅は、佐野川で 20～30m、住吉川で 5～15m、雨山川で 6～10m
- 河床勾配は、佐野川で 1/350～1/200、住吉川で 1/150～1/50、雨山川で 1/250～1/80
- 河床材料は、砂～砂礫で、河岸部は 5 分勾配のブロック積、石積等の護岸で整備されている
- 蛇行部を中心に、瀬や淵が形成されている



## 流域の特性(自然環境特性)

- 河道内植生については、低水路幅が広い佐野川では、低水路内に河原が形成され、その高位部にアレチウリやエノコログサなどが繁茂、一方、低水路幅が狭い住吉川や雨山川では、低水路内のほとんどが流路となり、河原や植生が少なく、河岸部にアラカシやマダケ、モウソウチクなどの樹木や竹林が見られる
- 佐野川に比べ、住吉川や雨山川の植生は単調であり、佐野川水系河川全体としてアレチウリやキシウスズメノヒエなどの外来種が多く繁茂しており目立つ
- 魚類については、泉州で見られるコイ、ギンブナ、カワムツ、カワヨシノボリなどが確認され、メダカやドジョウ、タモロコ、ウナギ、カワアナゴ、ドンコなど、「大阪府レッドデータブック」や「環境省レッドリスト」に記載されている重要種が見られるが、同地点でブルーギルやブラックバスなどの魚食性の外来種も見つかっており、重要種、在来種への影響が懸念される

## 流域の特性(歴史・文化・観光)

- 国指定重要文化財→「降井家書院」、「中家住宅」、「来迎寺本堂」
- 歴史的な建造物→「煉瓦館(熊取町文化財)」、「一般住家(商店や蔵、農家)の歴史的な街並み」
- 熊野街道、孝子越街道、粉河街道などが通り、古くから交通の要衝
- 住吉川、雨山川周辺は、古くからの住宅や蔵があり、歴史的な街並み景観が形成されている
- 地形が地名の由来となる(佐野→丘陵地、谷、扇状地など狭い土地=佐野(狭野)、熊取→周囲を山地、丘陵地でクマドリ(熊取)された谷)



①降井家書院 ②中家住宅 ③来迎寺本堂 ④煉瓦館  
※出典：熊取町 HP



⑮佐野川河口部 ⑯佐野川中庄橋下流 ⑰住吉川無名橋下流 ⑱雨山川豊穰橋下流

## 流域の特性(社会環境特性)

- 流域市町の人口は、約 14.6 万人で、世帯数は約 5.5 万世帯である。
- 現況の土地利用は、山地 20%、市街地 54%、農地 23%、ため池 3%であり、約 80%が開発されている
- 地場産業は、泉州タオルであり、繊維関係の工場が多く立地する
- 主な農産物は、全体では「水なす」、「泉州たまねぎ」、泉佐野市では「冬キャベツ」、熊取町では「フキ」